

# 生活環境の安全・安心に関する分野横断的内容の意識調査

○若林直子\* 小島隆矢\*\* 眞方山美穂\*\*\* 樋野公宏\*\*\* 布田健\*\*\*

\*有限会社 生活環境工房あくと \*\*早稲田大学 人間科学学術院 \*\*\*独立行政法人 建築研究所

## 1. はじめに

安全安心に関する住意識は、防災・防犯・日常生活事故などの分野ごとに検討されることが多い。しかし、居住環境の安全性を高める対策には、地域パトロール、窓ガラスを割れにくくするなど、分野共通のものも少なくない。本報では、居住環境の安全安心に関する総合的な内容の意識調査を全国規模で実施し、分野横断的な検討を行った。

## 2. 調査概要

Web 上で回答する形式の調査で、対象者は全国に居住する調査モニター登録者（25～54 才）、性別、年齢層などはほぼ均等である。時期は 2008 年 10 月、有効回答は 2,656、主な項目は、災害・事件事故など具体的な項目に関する「不安度」「危険度」「リスク知覚（被害にあう等の可能性がある—ない）」「回避可能性（注意や備えにより回避可能—不可能）」「結果の深刻度（もしも起こったら非常に深刻—あまり深刻でない）」、住居・地域に関する総合評価、および「対策行動」に関する約 50 項目などである。なお、ほぼ同内容の調査を

2007 年 3 月と 2008 年 3 月にも実施している<sup>1)</sup>。

## 3. 結果と考察

### ■災害事件事故などの具体的項目に対する認識

各項目に対する「不安度」などの認識を得点化して平均点を算出、相関行列に基づく主成分分析を行った。図 1 では、第一主成分（寄与率 58.9%、不安度・リスク知覚・危険度の影響大）を X 軸、第二主成分（同 30.4%、回避可能性の影響大）を Y 軸、第三主成分（同 8.2%、結果深刻度の影響大）を Z 軸にとり、各項目（固体）の主成分スコアと変数の認識（変数）の因子荷量ベクトルを同時にプロットした。以下、結果を解釈する。

- ・自然災害は、回避できない上に被災の結果も深刻である。とくに地震はリスクが高く、最も不安視されている。一方、常習地域が決まっている風水害等のリスクはそれほど高くはない。
- ・車上ねらいや路上犯罪などは高リスクだが、自然災害に比べると回避できる可能性等が高い。
- ・火災は、他に比べ「結果の深刻度」の影響が大きい（Z 軸方向に分布）。とくに出火して火災になった場合の深刻度は、回避可能性もあるだけに群を抜いている。しかしリスクは低いので、総合的には不安視されていない。
- ・日常災害のうち、交通事故はリスクが非常に高いが、回避できる可能性も高い。転倒転落事故はリスクはないわけではないが、自分の注意で回避できるし、結果もあまり深刻ではない（もっとも軽い）と思われる。

### ■特定分野への関心度等

以上からは、日常災害が防災・防犯より軽視されているように見えるが、各々への「関心度」「不安度」果にはほとんど差がない（図 2）。また各相関は非常に高く、分野による個人差は見られない。

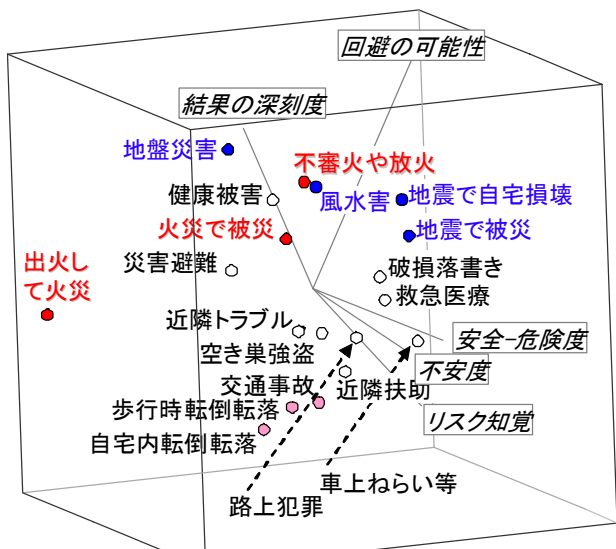


図 1 災害事件事故などに対する認識 主成分分析結果

■特定分野への関心度等と対策行動との関連

既報<sup>1)2)</sup>では、多くの対策行動に影響するのは、不満や不安といった「ネガティブ評価」より魅力などの「ポジティブ評価」であり、なかでも「関心度」が大きく影響することを示された。本報では、この結果を追試するとともに、たとえば「鍵ピッキング対策」に影響するのはとくに「防犯」に特定した関心度等なのかを検証するため、以下の分析を行った。

(1) 防犯・防災・日常災害・地域・住居別に、各関心度と不安度を説明変数、各対策実行率を目的変数とした重回帰分析を実施。

(2) 得られた各標準回帰係数を、縦軸を関心度、横軸を不安度とした布置図にプロットする。

結果の一部を図3に示す(地域・住居は既報<sup>1)</sup>とほぼ同様、防災は下図防犯とよく似た結果)。「ポ

ジティブ評価は常に+の値(「関心を持つ」が対策行動の基本)」「ネガティブ評価は+あるが、両者とも値が小さい」など既報同様の安定した結果で、防犯・防災・日常災害の別はほとんど影響しないことが示された。居住環境の安全性を高めるための対策行動を促す場合、一般に分野ごとに行われることが多いが、その必要性は薄いと見える。

- 1) 若林・小島・眞方山・樋野・布田「居住環境評価と安全・安心に関わる対策行動との関連に関する調査研究」日本建築学会大会梗概集D-1分冊, 2008
- 2) 小島・若林・眞方山・樋野・布田「住居・地域の安全安心についての意識と対策行動に関する統計的因果分析」日本建築学会総合論文誌, 第7号, 2009.01

[注1] 本研究は、建築研究所の重点的研究開発課題「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発」の一環として実施した。

[注2] 本報の一部に、早稲田大学人間総合研究センターの研究PJ「現代の生活環境における行動研究」の成果を用いた。

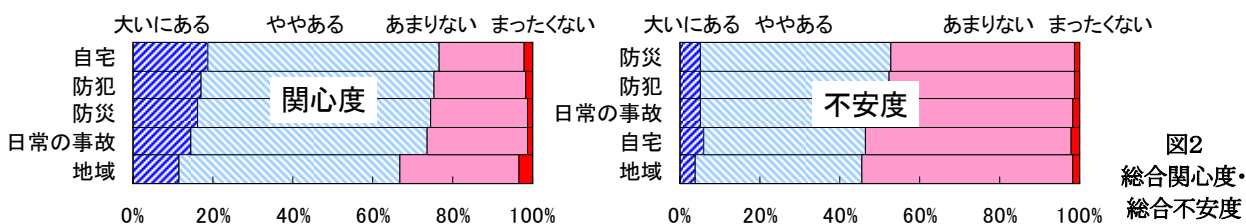


図2 総合関心度・総合不安度

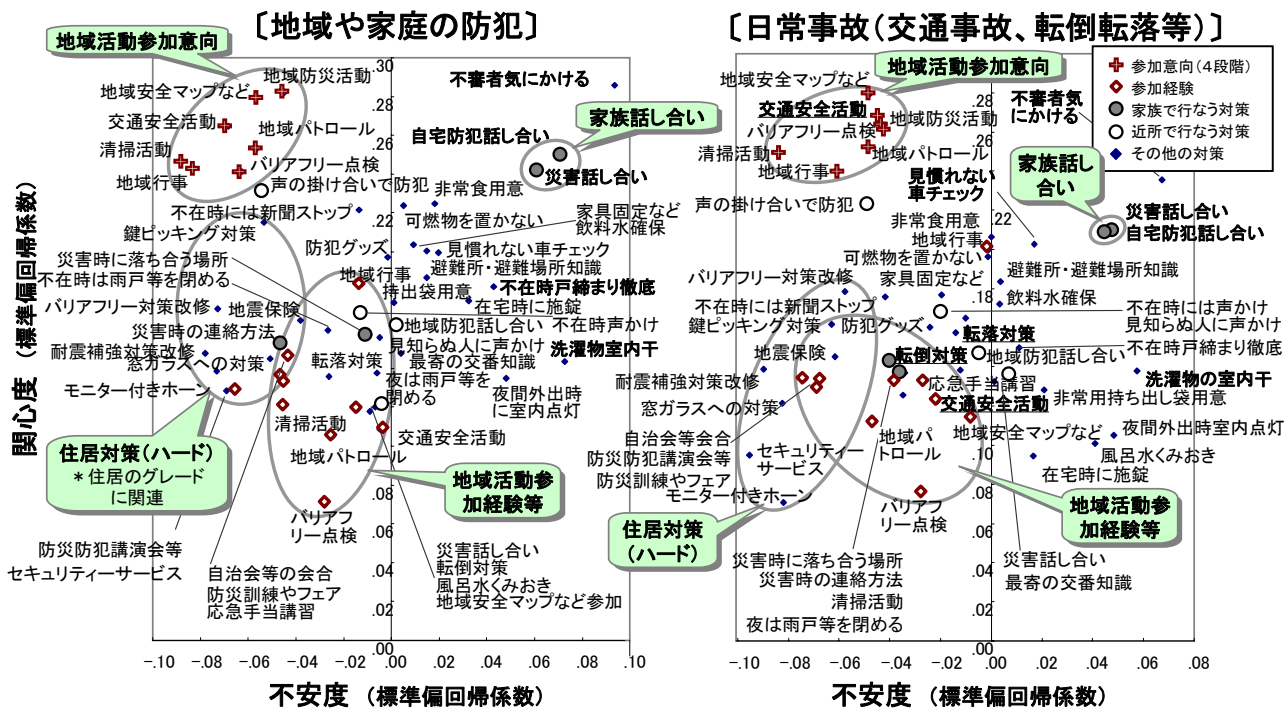


図3 特定分野への関心度・不安度と対策実行率との関連 重回帰分析結果(標準偏回帰係数)の布置図